# 令和６年度 学校経営報告書

八王子市立四谷中学校
校　長　　長　田　　克

はじめに

昨年度、学校評価における１の学校の教育方針や教育目標に関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合が、44.3%と知られていないことが分かった。そのことを踏まえ今年度は学校だより、保護者会等で将来子供たちが社会に出たときに国際社会で貢献出来る人材になって欲しいという願いから「学力向上」と「心の教育」に重点として取組んでいること。取組み内容は、教科の授業、体験的な学習（八王子の郷土学習、修学旅行や下町校外学習での伝統文化の学習など）。また、国際理解教育として、大使館員や留学生の講話などでそれぞれ国の文化・習慣についても学んでいることの説明してきた。昨年度より８ポイント上昇し 52.3%なった。次年度以降も体験的な学習を中心に教育活動を行っていく中で本校の取組を理解してもらうために保護者会や学校だより等で分かるように説明をしていく。

（１）確かな学力の向上

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学ぶ態度を身につける。

○ 始業、終業の徹底、学習規律の向上を図る。
○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実施する。
○ 生徒一人一人の学習到達状況の把握と改善をする。
○ ねらい、振り返り学びの工夫・改善に努める。
○ ペア・グループ学習による学び合い授業を展開する。
○ 学校図書館の効果的な活用による授業の推進をする。
○ 学び方ガイダンスの充実と学習習慣の定着を図る。
○ GIGAスクール構想の確立、学習意欲の向上を図る。
○ 計画的な補充学習を実施する。
○ 英語、漢字検定等への積極的な挑戦を推進する

学校評価における８の授業改善に関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合は、64.1%となっている。前年度と比較すると 12.4 ポイント上昇している。特に今年度は授業のねらいや振り返りが定着してきたことで授業改善が図られていると考えられる。基礎学力を向上させるために朝学習や放課後学習教室、長期休業中の補習教室を開催したが結果に結びついていないのが現状である。大きな改善が必要である。９の評価に関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合は、59.2%となっている。前年度比較すると 8.7 ポイント上昇している。しかし、一部納得しない生徒・保護者がいるため丁寧な説明と目標に準拠した評価を行うために評価材を工夫しなければならないという課題が今年度も残った。指導と評価の一体化ついては、次年度以降も誰もが納得できる評価になるよう研修・研究を重ね改善していく。

（２）豊かな心の育成

思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観などの豊かな人間性や

社会性を育むためには、他者との関わりや社会、自然環境の中での様々な体験活動を通して身につける。

○ 人権教育を推進し、自他を尊重し、思いやりのある態度で接し、いじめのない、心の居場所づくりに取り組む。
○ 明るく爽やかな挨拶を交わし合う学校環境を整える。
○ 考え議論する道徳授業の展開を展開する。
○ 自主的・実践的な集団活動を充実させ、達成感や成就感の感得させる。
○ 地域人材によるキャリア教育を推進する。
○ 特別支援教育を推進する。
○ 国際理解教育の推進と共生社会実現への基礎固めをする。
○ 学校いじめ対策委員会を中心に、差別やいじめの根絶を図る。
○ 不登校一人一人に応じた環境作り及び組織的支援を行う。

修学旅行や校外学習では、日本の伝統文化や郷土八王子について学習を深めることが出来た。体育大会や合唱コンクールは実行委員会を中心に取り組めた。その中で一人ひとりが責任をもって取り組めたことは生徒の成長につながった。また、生徒会が中心となって小中でいじめをゼロにする取り組は生徒一人ひとりにいじめについて考えさせるよい機会になった。人に対しての温かい気持ちを作ることやいじめに対する意識が向上した。学校評価における６のいじめに関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合は、63.6%となっている。前年度と比較すると6ポイント減少しているがいじめの件数は前年度と比較して減少している。子供たちのいじめは絶対に許されることではないという意識が向上してきているからだと考えられる。学校は、週に１回のいじめ対策委員会を開催し、「報告・連絡・相談」を徹底し、早期発見早期対応が出来た。また、毎週火曜日にいじめ対策の時間として二者面談（担任と生徒）を行い日頃からの悩みごとや不安なことを聞けることはよい機会となっている。不登校生徒に対しても今年度より登校支援巡回教員、登校支援コーディネーターを中心に登校支援委員会を週に１回開催し、SC、SSWなどと相談・連携しながら組織的に取り組むことができた。居場所づくりは出来たが、不登校の出現率を抑えることは出来なかった。１０の生活指導に関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合は、69%となっている。前年度と比較すると13.3ポイント上昇している。二者面談（担任と生徒）や自分ブログの活用などにより生徒の話を多く聞くことにより寄り添った指導の成果といえる。年間３５時間の「特別の教科　道徳」の授業を実施することはできた。少人数班による議論する道徳を今年度は実施することが出来た。少しずつであるが生徒の心の変容はしてきている。次年度も「考える道徳」「議論する道徳」の授業展開を工夫し、主体的な学びの授業へと進めたい。

（３）地域社会との連携

共生社会の実現に向け、豊かな感性を身につけ、他者の見方や価値観を柔軟に受け入れ、協働できる資質・態度、社会参画意識を身つける。

○ 地域運営学校としての協働した教育活動を推進する。
○ 地域社会・家庭と教育活動のねらいの共通理解を図る。
○ 地域社会と協働した郷土学習を推進する。
○ 防災教育の充実を図る。
○ 生活習慣・食習慣の育成規範意識の醸成をする。

○ 地域におけるボランティア活動等への積極的に参加する。
○ 義務教育９年間を切れ目なくつなぐ系統的・継続的な教育活動に取り組む。

９月に地域防災訓練や年３回の地域清掃を行った。生徒一人ひとりが地域の一員としての自覚が出てきている。
学校で咲いたラベンダー利用して学校運営協議会と四谷ハンズ部でラベンダーの匂い袋の作成や販売を行うことができた。地域の方々が、行事を通し、保護者や生徒と交流することで学校教育に関心を持ち地域全体で子供たちの健全育成にかかわてってもらえた。
生徒会活動は、月に１回の専門委員会や中央委員会、生徒会朝礼、あいさつ運動などの開催ができた。部活動においては、平日１日、休日１日は部活休業日、１週間の内２日は部活休業日を全ての部活動で実践できた。部活動改革も進んでいる。

（４）「協働するチーム四谷中」での教育活動の推進
① 広報活動の充実を図る。
○ すべての文書は「起案」を通し、書類の精度と発信力を高める。また、「起案」の決済をもって業務内容の決定とし、全教職員で決定事項の確実な遂行を図る。
○ 各種たよりや学校ホームページ等での情報発信を行い、家庭や地域の理解を得る。
② 環境づくりに取り組む。
○ 学年・学級、教科、分掌、委員会の組織力を高め、協働して教育活動に取り組む。
○ 奉仕（係）活動の指導を通して、清掃が行き届き、清潔感のある学校を目指す。
○ 生徒や保護者のニーズに応えた部活動の開設と活動内容の向上に取り組むとともに、八王子市の規定に準拠した部活動の運営体制を工夫し、構築する。
○ 保護者や地域からの受信力を高め、ＰＴＡや地域活動への生徒と教員の交流を大切にする。
○ 常に危機管理意識を高くもち、個人情報の管理を徹底する。
③ 健康や安全への意識や知識を高める。
○ 感染症予防対策を行うとともに、一人一人の生徒の健康状況を把握する。また、事故を未然に防止するための安全管理と安全指導に取り組み、共通理解を通して危機管理意識と事故回避知識を高める。
○ 食物アレルギーのある生徒のアレルギー症状（エピペンの使い方を含む）の理解と初期対応の手順を研修し、教職員一人一人が緊急事態に適切に対応できるようにする。
○ 特別な配慮が必要な生徒は、校長、副校長、養護教諭、学年主任・担任等の関係職員を含めた連絡会を開き、保護者との面接を通して協力・連携し、個別の対応策を検討して支援する。また、対応策は全教職員に周知し、事故の未然防止に取り組む。
④ 学校事務の機能を充実させる。
○ 学校裁量予算、補助金等に対する教職員の理解と協力を得ながら、情報の共有、環境整備、財務管理等を図り、効率的で効果的な予算執行に努める。
○ 事務担当と各学年や各分掌、各委員会、各部活動担当とが円滑な連絡や連携をとりながら、各種会計に関する適正な会計事務を行う。

学校だより、学年だより及びその他の配布文書による情報発信は概ね実施できた。学校ホームページによる情報発信は各学年１日１つ日記をアップすることは概ねできた。毎日の清掃や係・委員会活動は概ね責任をもって行えた。

学校評価における１３の学校評価の肯定的評価の割合は77.2%であった。前年度と比較すると6.1ポイント上昇している

服務厳正・信用失墜行為について、服務事故の事例を挙げて継続して指導を重ねてきた。特に、交通事故、個人情報の流失については毎週末に呼びかけを行い教職員の意識の向上が図れた。毎週水曜日に設定している定時退勤については出来ていない次年度の課題として残った。

（５）小中一貫教育の推進

○ ９年間で育てたい児童・生徒像を「成就感・達成感を味わえる児童・生徒」とし、小学校、中学校で９年間系統的な指導を推進する。

○ 小学校６・５年生を対象として、中学校の部活動体験と中学校の教員による授業体験を行い、小中学生の交流を深め、中一ギャップを解消する。

５月に部活動体験を行った。小学生からは「楽しかった。」「早く中学生になりたい。」「中学生が丁寧に教えてくれた。」中学生からも「楽しかった。」「達成感を感じた。」という感想があった。出前授業や授業体験でも「中学校での勉強が楽しみ。」「難しかった。」と高評価であった。中学生が夏休みに小学生への学習ボランティアや合同あいさつ運動、職場体験を行った。少しずつであるが小中一貫の取り組みを増やすことが出来た。３回の研修会では各分科会でテーマを決めて取り組んできたが、小学校と中学校とでの温度差はまだある。次年度も今年度の経験を踏まえて９年間を見通せる活動を行っていく。

学校評価における３の小中一貫の取り組みについては保護者アンケートから 78.7%となっている。前年度と比較すると 4.6 ポイント減少している。

（６）グローバル人材の育成

○ グローバル人材の根幹は、多様性を理解し認めること。世界は異なった価値観をもつ個性豊かな人々から成り立っている。それらを互いに理解し尊重する事が重要であり、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を身に付ける教育を推進する。

○ 外国人と直接交流し、文化や価値観の違いについて身をもって経験できる機会を創り出す。

学校評価における２の特色ある教育に関する問いに対し肯定的評価をした保護者の割合は、66.8%となっている。前年度と比較すると0.4ポイント減少している。１１月２９日にパナマ大使館職員による講演会、「留学生が先生」の授業を行いこの日を国際交流dayとした。また、修学旅行や下町校外学習でも外国人と直接交流すること目的としてインタビューを行った。文化や価値観の違いについて身をもって経験できる機会を創り出すことはできた。修学旅行や下町校外学習、八王子巡りでも日本の伝統文化についても体験的な学習を通じて学びを深めることができた。そのことによって多様性や異なる価値観の違いについて少しだけ理解を深まられ、興味・関心は持てた。次年度も今年度と同様な取り組みを行っていく上で豊かな国際感覚、世界の多様性を受け入れる力を身に付ける教育を推進する。